

1 国語

*** 開始の合図があるまで、開いてはいけません ***

試験が始まるまで、下の〔注意すること〕を読んでおいてください。

〔注意すること〕

- 問題用紙のページは13ページまでです。 解答用紙が1枚あります。
- 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 試験時間は、50分です。
- 印刷の見えにくい場合やページがぬけている場合は知らせてください。
そのほかの場合は、質問を受けません。
- 必要なものは、えんぴつ、消しゴム です。

※問いに字数制限がある場合は、句読点等をふくみます。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

出版社に勤務する五十二歳の「俺」は、母親と折り合いが悪く、結婚の報告をした約二十年前から連絡をとっていなかった。母親は、八十歳になった今も、クリーニング店を一人で営みながら一人暮らしをしている。年老いた母親を心配した「俺」が、妻の美弥子と共に実家のそばに引っ越した矢先、母親が倒れ意識を失った。幸い母親は意識を取り戻したが、医師は過労と診断し、一人で年中無休のクリーニング店を営む母親に「お年もお年ですし、それはご無理です」と告げた。母親は「俺」に「店を閉めようと思う」と告げ、それを「俺」は美弥子に相談し、「俺」と美弥子は実家の母親を訪ねることにした。

サンライズ・クリーニングの前に着くと、俺たちは裏口に回った。二階の電気はまだついている。

鍵は持っているので入ることはできたが、一応、チャイムを鳴らした。

母さんは二階から下りてきたのだろう、少し間があつて、ドアの向こうから「どちら様？」とぶっきらぼうな声がした。ドアに備わって

いるのぞき窓から見えるはずなのに、しらじらしい。

「俺だ」

そう答えるとドアが開いて、母さんがしかめ面で現れた。

「俺様かね。何か忘れ物？」

「……まあ、そんなところだ」

俺と美弥子の顔を交互に見たあと、母さんはドアから体を離れた。

「上がれ」ということらしかった。

俺たちを居間に通すと、母さんはこたつに足を入れた。

テレビではニュース番組をやっていた。

「ちよつと、天気予報だけ見せてよ。客足に響くんぞね」

俺と美弥子はなんとなくこたつに入れず、ソファに並んで腰かける。

九時前のお天気コーナーがのんびりと流れた。明日の天気は曇り時々晴れ。朝晩は寒気の影響を受けて冷え込むので防寒対策を。

予報を終えた気象予報士が礼儀正しくお辞儀をするとすぐ、俺は単刀直入に言った。ストレートに切り出してしまわないと、最初の一歩が進めない気がしたのだ。

「あのな、店を閉めるって話だけど」

母さんは黙ったまま、テレビから目をそらさない。

「ほんとに、母さんはそれでいいのか」

「……おまえには関係ないだろ」

「でもそうやって客足気にして、店のこと考えてるじゃないか」

「そりゃ、明日はまだ営業するし」

「なあ、母さんがよければ、俺たち……」

「いいんだ！ 店にはもう立ちたくない！」

遮るようにそう叫び、母さんはリモコンでテレビを消した。

そしてこらえきれなくなったように声を震わせる。

「こんな老いぼれた自分なんて……こんな弱った自分なんて、お客さんたちに見せたくないんだよ」

① 母さんが。

母さんが、小さく小さく見える。

俺は思わず立ち上がって母さんのそばに駆け寄りそうになった。

② でもできなかった。はねのけられるのが怖いのは、俺も同じだった。

一瞬静まった部屋の中で、美弥子が口を開いた。

③ 「違うわ」

張りつめていた空気に、切り込みが入る。

「お母さんの弱さはそこじゃないでしょう」

母さんが「A」眉を動かす。美弥子は静かだけれど強い声で続けた。

「お母さんの弱さは年齢のことでも体がしんどいことでもなくて、いかっこしようとして、つらいとか寂しいとか言えないところでしょう」

意表を突かれた。

美弥子のきつぱりとした物言いに。

母さんは戸惑った様子を見せながらも、口を尖らせる。

「そんなにズカズカと人の心の中に入ってくるんじゃないよ」

「ズカズカ行きますよ。お母さんとはもう長いつきあいなんですから」

長いつきあい？

④ 俺はきよとんとしたが、母さんはこたつテーブルの隅に視線を落とし、ふーっと大きなため息をついた。

「……まあ、そうだね」

そして何かをあきらめたように笑った。

そうだね？

どうなってるんだ？

「あんたたちが結婚してから、月に一度ぐらいのペースですつとだもんね。美弥子さんがシャツだの毛布だの持って、うちの店に来るの」

美弥子は穏やかにほほえむ。

……知らなかった。

結婚してからということは、もう二十年超えた。

美弥子は俺には何も言わず、電車に乗ってまでこの店に来てたのか？

母さんの様子を見るために、関係をつなげるために、洗濯物を持つて。

そこでひらめくように思い当たった。

俺が手掛けた創刊号からの*1『ラフター』。知らせたのは、美弥子か。

「客だからね。邪険にはできないよ」

母さんは苦笑いしながら額に手を当てた。

俺は……俺は二十年もの間ずっと、サンライズ・クリーニングできれいになったシャツを着て、ふかふかになった毛布で眠っていたのか。

「私、たくさんいる常連客のひとりですからね」

美弥子が笑う。

母さんは少し視線を遠くに投げ、*² 野良猫を見ていたときと同じようなやわらかい表情を浮かべた。これまで店に通ってきてくれた客たちのことを思い出しているようだった。

「仕事っていうのはね、合った場所で続けていると、お金のやり取りだけじゃない何かが生まれるんだ。人と人が紡ぐものがある。会えること、話せること自体が嬉しくなって、あるところまでいくと、お金じゃないってなるんだ。…なじみの顔が増えて、この店は毎日開いてるから助かるよ、おばあちゃんがいつでもいてくれて頼もしいよって言われて、そのおかげでずっとがんばれたんだ。あたしはいつもここで元気になっていなくちゃって、自分がどこまでやれるかチャレンジするような気持ちだったのかもしれない」

母さんは、肩を少しすくませた。

「でもだからこそね、まだ体が動く今のうちに去るのも悪くないんじゃないかって思ったんだよ。みんなの記憶の中で、元気なあたしのまんなま。確かにあたしは、いいかつこしたかつたんだらうね」

そこまで言うと、母さんはうつむいた。

「でもやっぱりもう、潮時だよ。こんなに好きな仕事をつらいと思うことがつらい」

美弥子は、壁のフックに掛けられている母さんの上着に少し目をやった。葉っぱの刺繍が施された、グレーのコートだ。

「ねえ、お母さん。⑤ チャレンジもすごいことだけど、アレンジも素晴らしいんじゃないかしら」

「え？」

「ずっと同じじゃなくて、少しずつ手を加えて前よりもっと良いものにするの。まず、定休日を作りましょう。八十代だって二十代だって

同じ、あたりまえのことです。しっかりと働くために、しっかりと休まないため」

母さんが、叱られた子どものように下唇を「B」突き出す。でもそこには、安堵の匂いも漂っていた。

「それから…私の手をお貸ししますので使ってください。お店でも、おうちでも」

美弥子はそっと、片腕を掲げる。

母さんが俺を見上げた。様子をうかがうようにして。俺はただ、大きくうなづく。

受け取ってくれ、母さん。

俺たちの気持ちを。

それが今、⑥ 俺が求める母さんの愛情だから。

母さんから、「C」笑みがこぼれる。

「…美弥子さんの手、猫ほど役に立つかね」

相変わらずの憎まれ口だ。しかしその目の縁は、わずかに濡れている。

美弥子は「尽力します」と笑ったあと、「D」こう言った。

「大丈夫です。少し休めばお母さんはまた、必ず店に立ちたくなくなりますから」

(青山美智子『リカバリー・カバヒコ』による)

〈注〉

*1 『ラフター』：「俺」が約二十年ぶりに実家に行くと、なぜか自分が編集長として手掛けた月刊情報誌の『ラフター』が創刊号から本棚にぎっしりと並んでいるのを見かけた。『ラフター』の編集に携わっていることを母親に伝えていなかった。「俺」は、不思議に思っていた。

*2 野良猫：母は「俺」が飼っている猫を見た時、「猫は嫌いだ」と悪態をついた。しかし「俺」は、母親が野良猫に餌を与えてやさしくほえんでいる姿を、偶然見かけた。

問一 文中の「A」「B」「C」「D」にあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア ふつと イ すつきりと
エ びくりと ウ ふつくりと

問二 — 線部①「母さんが。母さんが、小さく小さく見える。」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「母さんが。」の表現効果として適当なものを、次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「母さん」の様子に「俺」が違和感を持っていることを印象づけている。
イ 「母さん」の様子を「俺」が時間をかけて観察していることを示している。
ウ 「母さん」の前では「俺」が素直になれないことを暗示している。
エ 「母さん」の様子に「俺」が心を痛めていることを強調している。
オ 「母さん」の印象を「俺」が自問自答していることを指している。

(2) 「母さんが、小さく小さく見える。」とは、母さんのどのような様子を表現しているのか。最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「母さん」の戸惑っている様子。
イ 「母さん」の落ち込んでいる様子。
ウ 「母さん」の判断に迷っている様子。
エ 「母さん」の痛みを耐えている様子。

問三 — 線部② 「でもできなかった。」とあるが、I 「どういう理由」

でII 「何をする事」ができなかったのか。本文中の語句を用いて、次の説明を完成させなさい。ただし、それぞれ指定の字数で答えること。

I (十五字以内) ので、

II (十五字以上二十字以内) ことができなかった。

問四 — 線部③ 「違うわ」とあるが、何がどう違っていたのかを説明

した次の文を完成させなさい。ただし、それぞれ指定の字数で答えること。また、I は本文中の語句を用いて、II は本文中から抜き出して答えなさい。

「母さん」は、店を閉める理由を

I (二十字以上二十五字以内) からと言っているが、

本当に問題なのは、II (三十字以内) である。

問五 — 線部④ 「俺はきよとんとした」のは、なぜか。その理由の

説明として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 普段穏やかな性格であるはずの美弥子が、自分の母親に対し、母親も戸惑う様子を見せるほどきっぱりとした言い方で

ズカズカと物を言ったことで、自分の知らなかった妻の一面に初めて気付いたから。

イ 美弥子と母親は長いつきあいであるから、母親に向かってズカズカと話してもよいだろうという美弥子の考え方が、「俺」にはどうしても理解できず、母親が怒り出すのではな

いかと心配したから。

ウ 美弥子は母親と関係を持つため、結婚以来ずっと母親が営むクリーニング店に通っていたが、「俺」はそのことを知らず、結婚の報告をした約二十年前から母親とは連絡をとっていないと思っていたから。

エ 美弥子が母親の弱さをはつきり指摘するようなことを言い出すとは思っていなかったため、「俺」はすっかり動揺してしまい、美弥子が話している内容を理解するのに時間がかかってしまったから。

問六 — 線部⑤ 「チャレンジもすごいことだけど、アレンジも素晴らしいんじゃないかしら」の説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母親は店を閉めても近所の人とのつながりは切らないようにすることに挑戦するつもりだったが、美弥子は働き方を変えることで店を続けることを提案している。

イ 母親は何歳まで元気で店で働くことができるか挑戦するようになったと指摘し働き方の改革を提案している。

ウ 母親は息子夫婦に迷惑をかけたためにどこまで店で働けるか体力の限界に挑戦していたが、美弥子は長く働けるように働き方を変えることを提案している。

エ 母親は元気に店で毎日働くことが何歳までできるかということに挑戦するような思いでいたが、美弥子は定休日を決めて働き方を変えることを提案している。

問七 — 線部⑥ 「俺が求める母さんの愛情」とは、具体的にどうすることを指すか。三十字以上四十字以内で説明しなさい。

ア エから一つ選び、記号で答えなさい。

□ 次の文章は、筆者が古代ギリシャの哲学者プラトンの文章を引用したのち、「社会的な身体」について述べたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

ソクラテス (….) エジプトのナウクラティス地方に、この国の古い神々のなかのひとりの神が住んでいた。(….) 神自身の名はテウトといた。この神様は、はじめて算術と計算、幾何学と天文学、さらに将棋と双六などを発明した神であるが、とくに注目すべきは文字の発明である。ところで、一方、当時エジプトの全体に君臨していた王様の神はタモスであって、この国の上部地方の大都市に住んでいた。(….) テウトはこのタモスのところに行つて、いろいろの技術をアヒロウし、ほかのエジプト人たちにもこれらの技術を広ぐつたえなければいけません、と言つた。タモスはその技術のひとつひとつが、どのような役に立つものかをたずね、テウトがそれをくわしく説明すると、そのよいと思つた点を賞め、悪いと思つた点をとがめた。(….) 話が文字のことに及んだとき、テウトはこう言つた。

「王様、この文字というものを学べば、エジプト人たちの知恵はたかまり、もの覚えはよくなるでしょう。私の発見したのは、記憶と知恵の秘訣なのですから。」——しかし、タモスは答えて言つた。

「(….) あなたは、文字の生みの親として、愛情にほだされ、文字が実際にもっている効能と、正反対のことを言われた。なぜなら、人々がこの文字というものを学ぶと、記憶力の訓練がなおざりにされるため、その人たちの魂の中には、忘れっぽい性質が植えつけら

観念のことである。そしてそれは、コミュニケーションによって作られる、^③ 予期の織物のような存在である。

私たちがいるコミュニケーション環境に適応するためには、様々な「サボウ」や慣習を身につけたり、いくつかのメディアを、特定の仕方ですばいこなせるようになることを求められる。かつての日本であれば、ある階層には書道の能力、そろばんの能力、武道の能力、和装を着こなす能力が自明であった(として語られる)。しかし、現代の一般企業が「社会人として」求める能力は、ブラインドタッチ、ネクタイの締め方、電話応対、名刺交換の方法、ワードにエクセルの操作、携帯電話の電源を常に入れておくことであって、責任を取るために腹を切るのではない。

社会は人々に、メディアを通じた特定の振る舞い方が学習されていくことを期待している。同時に人々は、時代や状況に忠じて、その身体を社会的に組み替えていく必要性を知っている。

多くの人にとってメディアを獲得することは、新しく身体能力を外部化し、拡張することでもある。脳にプラグをさして、記憶容量を増やすことこそまだ直接的な形ではできないが、それに類した行動はすでに行われている。自分の記憶容量が足りなければ、自分が憶えきれなければ、人にうまく伝えられないと思えば、メモをし、レコーダーやカメラをまわし、パソコンやケータイなどに保存し、コピーしたデータを渡してあげればいい。そうした振る舞いが一般化するにつれ、社会は人々に「拡張された能力」が存在することを前提として組み込んでいく。

いまでは就職活動は^{*3}「リクナビ」に登録するところから始めら

れ、^{*4} 履歴書にはケータイ番号やメールアドレスを書くことが求められる。街には^{*5} QRコードが溢れ、レジカウンスターの前でケータイをかざすことを薦められる。大学教授も、学生に対して長文の電子ファイルを課題として提出することを求め、相応の挨拶文が打てない者についてはしかめっ面をしてしまう。具体的な待ち合わせ場所を決めずとも、連絡を取り合いながら落ち合えるという期待が生まれ、時間になっても電話が繋がらない相手はマナー違反であると思われてしまう。

このように、ひとたび特定のメディアが社会的身体化されると、その利用はすでに社会的に埋め込まれた「約束」になる。私たちはその「メディアによって拡張された能力」を、簡単には手放すことできない。新しい身体に何か「問題」が起こったとしても、その身体を^{*6} ダウングレードして「裸」の状態になるのではなく、さらに^{*7} アップデートすること、あるいは何か^E 代替のメディアを構築することによって対処されていくことが望まれる。

「昔に帰れ」といった説教が、感情的メンテナンスの役には立っても、システム構築の代案としては常に無効だったように、一度埋め込まれた機能を手放すことは実に難しい。個人がそれに抗うからではない。すでに社会が、そのような身体を持った人々の存在を前提として進み始めているからだ。いまや、すべての身体は、象徴的な義体なのである。

(荻上チキ『社会的な身体——振る舞い・運動・お笑い・ゲーム』による)

〈注〉

*1 口述：口で述べること。『古事記』の序文によると、稗田阿礼が覚えていた内容を口述し、おののずまろ太安万侶が聴き取って整理したという。

*2 セックスとジェンダー：生物学的な機能や能力における性差と、社会的・文化的に求められて作られた性差。

*3 「リクナビ」：リクルート社が運営する、就職活動に関連するさまざまな機能やサービスを提供するサイト。

*4 履歴書：その人の学歴・職歴、趣味などを書き記した書類。

*5 QRコード：バーコードと同じ自動認識技術で、二次元(平面)になったバーコード。QRとは「Quick Response(素早く読み取り反応する)」に由来する。

*6 ダウングレード：パソコンなどで、ソフトウェアを古いものに取替えること。

*7 アップデート：「更新」という意味。コンピューターやスマートフォン、アプリなどを最新の状態にすること。

問一

線部A「ヒロウ」B「カンベン」C「チクセキ」D「サホウ」E「代替」について、カタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなでそれぞれ答えなさい。

問二

線部a「とがめた」b「ほだされ」の本文中における意味として、最も適切なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a 「とがめた」

ア 指摘した イ 非難した ウ 説明した エ 拒絶した

b 「ほだされ」

ア 束縛され イ おだてられ ウ 刺激され
エ 恵まれ

問三

線部①「正反対のこと」とあるが、そのようになる原因として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 文字を使う人たちに忘れっぽい性質が植え付けられることで、記憶力の訓練がなおざりにされるから。

イ ものを思い出すとき、自分の記憶を掘り起こすのではなく、彫りつけられた文字を読むようになるから。

ウ 文字を読むことで特別な優越感を持つようになり、知者であるとうぬぼれて努力をしなくなるから。

エ 文字を読んで多くの知恵を得る一方で、読み間違いをおそれて先人や師匠との交流を避けるから。

問四 文中の□に入る語句を十五字以上二十字以内で本文中から探し、抜き出して答えなさい。

問五 —線部②「社会的身体」の説明として適切でないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 社会的に構築された、個人の身体に対するイメージ。
- イ 文化的な差異を備え、短い時間のなかで変化するもの。
- ウ 生物的身体が時代や状況に応じて進化・退化したもの。
- エ 個人間や社会とのコミュニケーションで作られるもの。

問六 —線部③「予期の織物」の説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア タテ糸とヨコ糸を組み合わせて布を織るように、社会からのたくさんの期待が途切れることなく続いている状態。
- イ しなやかにわたしたちを包む布のように、社会からの期待がわたしたちを急激な変化から守ってくれている状態。
- ウ 布が色とりどりに織り上げられるように、社会からのさまざまな期待がわたしたちの生活を彩っている状態。
- エ 長い時間をかけて布を織り上げるように、社会とわたしたちとが丁寧なコミュニケーションをとっている状態。

問七 本文の内容に合致するものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人々は生まれ持った身体的能力以上のことができるようになりたいたいという動機でメディアを開発し、それを利用することで欲望を叶える。そのくりかえしの中で人間の身体は便利さに慣れ、もともと持っていた能力を失っていった。
- イ 人間は文字や数字を獲得し、次いでそれらを記録するため紙や電子媒体を獲得した。そのことで、かつて稗田阿礼が行ったような口述の価値は失われ、「古事記」のような民族に代々伝わってきた伝承も失われていった。
- ウ パソコンや携帯電話、スマホなどの情報端末が登場し、定着すると、社会は人々にそれらを使いこなすことを当然のこととして求めるようになった。このことは、メディアを持つ人と持たない人との格差となり、社会問題となっていた。
- エ メディアを獲得し、それによって生身の身体では不可能だった能力を一旦手に入れてしまうと、それを手放して社会の中で生きていくことは難しい。私たちはメディアを身体の一部のように使い続けながら、現代社会を生きていく。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この文章が書かれた鎌倉時代は、病気は「物の怪」がつくこと
で起きると考えられていて、治療は病人から物の怪を取り去るよ
う修験者しゆげんなどが祈禱きとう（お祈り）をすることであった。

昔、物の怪 **A** わづらひし所に物の怪渡しし程に、**①** 物の怪、

物の怪が憑ついていた人の所で、（修験者が）物の怪を祈禱して

別の人（霊媒の女）に乗り移うつらせたところ、

物つきに憑つきていふやう、「おのれは祟たりの物の怪にても侍はべ

1301

らず。うかれてまかり通りつる狐なり。塚屋つかやに子どもなど侍
ません。さまざま歩いて

塚穴つかあなの家には子供などいるが、

るが、物をほしがりつれば、かやうの所には食物散るぼふも

食い物を

こんな所には

食い物が散らばっている

のぞかして、まうで来つるなり。しときばら食くべてまか

はずだと思つて、

やつて来たのだ。

餅もちでも

食くへて帰かへる

りなん」といへば、しときをせさせて一折敷おしき取とらせたれば、
ししよう 作つくらせて 四角い盆ぼんに二杯

少し食くひて、「あなうまや、うまや」といふ。「この女のし

ああおいし。

ときほしかりければ、そらもの憑つきてかくいふ」と**②** 憎にくみあ

狐きつねが憑ついたふりをして

へり。

「紙 **B** たまはりてこれ包みてまかりて、専女せんによめや子どもなど

いただいて

包くるんで帰り、

年寄としより

に食くはせん」と **a** いひければ、紙かみを二枚引きちがへて包くるみた

食くへさせよう

紙かみを二枚引き違ちがえて

包くるんだ

れば、大きやかなるを腰こしに **b** 挟はさみたれば、胸むねにさしあがり

ところ、大きな包かみみとなったのを腰こしにはさみ入いれると、（餅もちが入いった着物きものは）胸むねもとまで
ひくひくびくびく

てあり。かくて「**③** 追おひ給たまへ。まかりなん」と験者げんじやにいへ
追おつてくださった。

ば、「追へ追へ」といへば、立ちあがりて倒れ伏しぬ。し

「去れ、去れ」と言つて、

ばしばかりありて、やがて起きあがりたるに、懐なる物さら

懐の紙包みはきれい

になし。

になくなつていた。

失せにけるこそ④不思議なれ。

失せてしまったのは 実に不思議なことだ。

『宇治拾遺物語』による

問一 線部A「わづらひし」、B「たまはりて」の読みをすべて

ひらがな（現代仮名遣い）で書きなさい。

問二

線部①「物の怪、物つきに憑きていふやう」について「物の怪」が「物つき（霊媒の女）」を通して話した内容として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分のすみかには子どもがいて、食べ物をはしがっている。
- イ 餅を食べられたら、この病人から離れてすみかに帰ろう。
- ウ ここには食べ物があると思つて、やがて来たのである。
- エ 自分は物の怪であり、そこを通りかかった狐を使っている。

問三

線部②「憎みあへり」は誰が（主語）どうだ（内容）といふのか。説明として最も適切なものを次のア～エから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

主語

- ア 周りの人々が
- イ 物の怪と狐が
- ウ 物の怪と霊媒の女が
- エ 霊媒の女と周りの人々が

内容

- ア 物の怪がまんまと狐を利用して腹を立てた。
- イ 狐が自分の家族達を口実にして腹を立てた。
- ウ 霊媒の女が狐がついたふりをして腹を立てた。
- エ 周りの人たちが餅の準備が大変だったと腹を立てた。

問四 〓線部 a、c の中で主語（主体）が異なるものが一つある。その記号を答えなさい。

問五 〓線部 ③「追ひ給へ。まかりなん」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私を追い出して下さい。この人の身体から出ていってしま
いましょう。

イ 物の怪を追い出して下さい。代わりにきつと私が参りまし
ょう。

ウ この人を部屋から出して下さい。確かに物の怪がいなくな
るでしょう。

エ 狐を体から出して下さい。物の怪が逃げていってしま
うでしょう。

問六 〓線部 ④「不思議なれ」について、授業でこの文章を読んだ
安子さんと梅子さんが次のような会話をした。I、II
に入る内容を現代語で答えなさい。ただし、I は一語で、
II は指定の字数で答えること。

安子さん この文章の最後の部分で「失せにけるこそ不思議なれ」
と書かれているけど、無くなったのは何かしら。

梅子さん それは I（一語） だわ。

安子さん さっきまであったものが無くなったんだから不思議よ
ね。

梅子さん でもそれだけが不思議だったのかしら。深く考えてみ
ましょう。

安子さん そうか。I がなくなったのが II（十五字以
上二十五字以下）も不思議だと言ってるんじゃない
かしら。

梅子さん なるほど、読みが深まったわ。

